

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	臼井 陽一郎		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	戦後ヨーロッパ史研究：トニー・ジャットとマーク・マゾワを読む？ トニー・ジャットの『戦後ヨーロッパ史』とマーク・マゾワの『暗黒の大陸-ヨーロッパの20世紀』を読みます。どちらも、ヨーロッパ史研究の巨大な達成です。これをゼミで読み進めながら、ヨーロッパ統合の意味と意義について、あわせて考えていきます。歴史を勉強するということは、物語を語るその方法を学ぶ、ということでもあります。ヨーロッパ統合を視野に入れ戦後ヨーロッパ史の専門書を読むこのゼミの目的は、これです。他の地域の歴史と同様、戦後のヨーロッパの歴史にも、実にさまざまな物語が織り込まれています。最終的には、この無数の物語のうちのどれかひとつをゼミ生一人ひとりに選んでもらい、ゼミ発表の形で語ってもらおうと思っています。？				
内容	参加学生は指定テキストをあらかじめ読んで（毎回、読んでおくページ箇所をあらかじめ指定しておきます）、コメントを述べられるようにしておいてもらいます（とくに興味を持った点、疑問に思った点、さらに深く調べたいと思った点、他の何か重要な点とつながるなど考えた点、納得がいかない点などなど）。？ 教員が指定テキストについて簡単に（ガチの授業ではなく）解説をし、内容について確認をします。？ そのうえで、担当学生にコメンテーターとして指定テキストの該当ページの内容について、5～10分のコメント報告をしてもらいます。？ 以上を何回か続けたうえで、戦後ヨーロッパ史を構成する物語をひとつ、選んでもらい（たとえばブラントの東方外交や、ヘルシンキ・プロセスや、ユーロ危機や、難民危機など）、20分ほどの報告ができるように、他の資料なども調べつつ、まとめてもらいます。？ また新型コロナウイルス感染状況が収まれば、10大学合同ゼミを再開します。これまで臼井ゼミでは、2015年に札幌（北海道大学吉田ゼミ主催）、16年新潟（新潟国際情報大学臼井ゼミ主催）、17年神戸（関西学院大学市川ゼミ主催）、18年箱根（東海大学武田ゼミ・小山ゼミ主催）、19年名古屋（名古屋商科大学関根ゼミ主催）と、合同ゼミを進めてきました。北海道大学、北海学園大学、聖学院大学、尚美学園大学、法政大学、東海大学、立教大学、慶應義塾大学、新潟国際情報大学、名古屋商科大学、立命館大学、龍谷大学、天理大学などが、これまで参加してきました。コロナが恨めしいかぎりですが、どうにか復活させていきたいと思っています。統一テーマをひとつきめ（移民問題、テロ問題、リベラルについて、などなど）、大学ばらばらにして10チームほどのグループを作り、そのグループごとに統一テーマについてプレゼンしてもらい、参加教員・参加学生が投票して、1位と2位を決め、スタバカードと図書カードを進呈する、というイベントです。一泊します。はじめて会う他大学の学生たちと、ひとつのチームを作って、統一テーマについて、場合によっては酒を酌み交わし夜を明かして、プレゼン内容を詰めていきます。アフターの飲み会はほんとうに弾けます。？				

学修到達目標	歴史を語ることの難しさおよびその意義について、意識できるようになること。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	テキストの読み、コメントの準備。2時間。
【復習】時間・内容	テキストの再読、他の学生のコメントの再考。2時間。

成績評価	
評価基準・方法	テキストへのコメントのプレゼン、50% 400字課題、50%
フィードバック方法	テキストへのコメントおよび400字課題について、ゼミLINEグループに講評を投稿。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	トニー・ジャット『戦後ヨーロッパ史』（上・下）みすず書房。 マーク・マゾワ『暗黒の大陸-ヨーロッパの20世紀』未来社。?
---------	---

受講上の留意点等	必ず、佐潟に桜を見にいき、弥彦にお参りし、カーブドッチで猫を探し、紅葉谷で紅葉を見ます。でも、全員がいつメンになる必要はありませんし、必ず参加しなくてはいけないということもありません。自由に気楽にゼミに参加してもらえたらうれしいです。～でなければいけないという発想にしばられることからどうやって自分を解放するか、そこがこのゼミの基本の目的です。戦後ヨーロッパ史の勉強は、担当教員がたまたま勉強したかった趣味的なものにすぎません。が、その面白さはがんばって参加学生に説明していくつもりです。 ?映画も観ますし、音楽も聴きます。いろんなことをゼミの場でやって、さまざまなことをみんなで考えていきたいと思います。? 卒論テーマは、文学作品や映画、音楽をとりあげても構いません。戦後ヨーロッパ史という枠組みのなかから拾い出せるものならば、卒論の主題はOKです。?
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	矢口 裕子		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	テキスト講読によるジェンダー／文学／文化批評				
内容	文学研究の世界では、1980年代以降、「ジェンダー・階級・民族性」という新たな視点を導入することにより、それまで埋もれていたり周縁的位置に追いやられていた作家・作品が発掘され、さらに、すでに正典（キャンノン）として評価が確立しているかに見えた作品を読み直す作業が盛んに行われるようになった。また、そうした新たな批評の道具を映画・音楽等ポピュラーカルチャーの解読に応用する試みも活発である。 このゼミでは、そうした批評的視点から文学、映画、音楽、文化一般や時代を読み解くこと、最終的にはその成果としての卒業論文をまとめることを目標とする。 テキストを日本語にするか英語にするか、両方を取り上げるかは、年度によって異なる。翻訳のゼミにすることもありうる。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらう。 レポーター制によりテキストの精読を行う。レポーターの仕事は、テキストの内容をまとめ、調べるべきことを（舐めるように）調べ、そのうえで自分の意見・疑問・論点を提示し、ゼミ内の議論を活性化させることである。むろんレポーター以外の学生もテキストを精読し、自分の意見を用意してゼミに臨むことが求められる。				

学修到達目標	ジェンダーの問題意識を持って世界の状況を考え、芸術作品を読み解き、自分の生き方を決定する姿勢と能力が身につく。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。課題テキストの精読。
【復習】時間・内容	2時間。課題テキストの見直しと不明点を調べ理解する。

成績評価	
評価基準・方法	レポーターとしてのゼミへの貢献度、普段の発言等ゼミへ取り組む姿勢、随時課す少レポート、半期ごとに課す期末レポートの成果を総合的に判断する。
フィードバック方法	レポートへの講評、添削。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション

教科書/参考書	田嶋陽子『ヒロインはなぜ殺されるのか』講談社 舌津智之『どうにも止まらない歌謡曲』晶文社 大和田俊之『アメリカ音楽史』講談社 Harry M. Benshoff and Sean Griffin, Gender and American Film, Eihosha. Anais Nin, Linotte: The Diary of Anais Nin, Harcourt.
---------	---

受講上の留意点等	読むこと、書くこと、考えることが好きな学生、様々な分野にアンテナを張り巡らせた、知的好奇心旺盛な学生を歓迎する。 3年ゼミは2年間かけて卒論を完成させる重要なものなので、自分の興味、適性、志向に鑑みて熟慮の上選んでほしい。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	越智 敏夫		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-310005	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	政治思想と現代社会 あるいは「自分の人生について考えることは他人の幸福について考えることになるのか」				
内容	卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組みます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。しかしはっきりいって、現代社会の事象でこの三つに関連しないものは存在しません。なので、およそみなさんが関心をもったことについては指導します。 ゼミナールでは現代の政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなってしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。 もし「今の社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。 ゼミナールの具体的な内容としては現代社会について同時代的に考えている人々の論文を読んでいきます。これまでの越智ゼミでは、マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッシェル・フーコーという5人の政治思想家に限定していましたが、思うところあって、今年度は範囲を広げて他の論者のものも読むことにしました。誰の論文を読むかはゼミ生と相談しながら決めます。 しかし一回読んだだけで理解できるようなものを読むことは絶対にないで、ゼミ前の熟読が必要になりますし、ゼミでの議論も複雑なものになると思います。自分の意見を自分から発言するような積極的な学生の参加を期待します。 こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問いとどう結びつくのか心配する人もいるかもしれませんが。しかしこれらの問いについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問いを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。 テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、テキスト内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」という3者を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。				

学修到達目標	テキストを読んだうえで自分の考えをまとめ、誰かにていねいに伝え、その反応について理解できるようにする。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 テキストの事前講読と意見の整理
【復習】時間・内容	2時間 ゼミナールでの議論の総括と意見のさらなる整理

成績評価	
評価基準・方法	出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。
フィードバック方法	LINEなどの意見交換ツールなどにより、ゼミナール終了後もフィードバックを常に維持する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション

教科書/参考書	たとえば、下記。具体的には学生と相談します。 <table border="0"> <tr> <td>ヴェーバー『職業としての学問』</td><td>岩波文庫</td></tr> <tr> <td>ヴェーバー『職業としての政治』</td><td>岩波文庫</td></tr> <tr> <td>ベンヤミン『複製技術時代の芸術』</td><td>晶文社</td></tr> <tr> <td>ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』</td><td>講談社文芸文庫</td></tr> <tr> <td>アレント『全体主義の起原』</td><td>みすず書房</td></tr> <tr> <td>アレント『暴力について』</td><td>みすず書房</td></tr> <tr> <td>丸山眞男『現代政治の思想と行動』</td><td>未来社</td></tr> <tr> <td>丸山眞男『日本の思想』</td><td>岩波新書</td></tr> <tr> <td>フーコー『知への意志 性の歴史』</td><td>新潮社</td></tr> <tr> <td>フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』</td><td>新潮社</td></tr> </table>	ヴェーバー『職業としての学問』	岩波文庫	ヴェーバー『職業としての政治』	岩波文庫	ベンヤミン『複製技術時代の芸術』	晶文社	ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』	講談社文芸文庫	アレント『全体主義の起原』	みすず書房	アレント『暴力について』	みすず書房	丸山眞男『現代政治の思想と行動』	未来社	丸山眞男『日本の思想』	岩波新書	フーコー『知への意志 性の歴史』	新潮社	フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』	新潮社
ヴェーバー『職業としての学問』	岩波文庫																				
ヴェーバー『職業としての政治』	岩波文庫																				
ベンヤミン『複製技術時代の芸術』	晶文社																				
ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』	講談社文芸文庫																				
アレント『全体主義の起原』	みすず書房																				
アレント『暴力について』	みすず書房																				
丸山眞男『現代政治の思想と行動』	未来社																				
丸山眞男『日本の思想』	岩波新書																				
フーコー『知への意志 性の歴史』	新潮社																				
フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』	新潮社																				

受講上の留意点等	自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかなです。そしてこのゼミはきついゼミです。そこををよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。 合宿は夏期休業中に3・4年合同でおこないます。県内を予定しています。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	小山田 紀子		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	グローバル化と地域社会-中東・北アフリカ・ヨーロッパ・日本を中心にー				
内容	●教員の研究テーマ： マグリブ近現代史（マグリブとは、北西アフリカの西方アラブ圏諸国を指すアルジェリア・チュニジア・モロッコ3国）、アルジェリアの植民地史研究、フランス帝国主義研究、マグリブの脱植民地化の過程に関する比較研究、フランスのイスラーム系移民問題、日本における異文化理解（外国人、とくにムスリムとの交流など） ●これまでの卒業研究のテーマ（小山田ゼミで取り上げられたテーマ） 「チュニジア・ジャスミン革命-その歴史的要因と『アラブの春』の行方-」 「カダフィの生涯-リビア革命からアラブの春まで」 「アルジェリア独立戦争-フランス植民地支配の歴史と戦争の記憶-」 「フランスの教育問題-教育優先地域（ZEP）を中心に-」 「フランスの移民政策とムスリム系移民の現状-2005年の郊外暴動を中心に-」 「フランス移民第二世代における社会的統合-共生社会に向けて-」 「現代フランスの子育て支援-女性の社会進出と家族政策-」 「パリ・コレクシオンの歴史-世界ファッションへの影響-」 「フランス凱旋門賞と日本馬の挑戦」 「在日ムスリムの生活と文化-新潟アンヌールモスクの事例を中心に-」 「エジプト革命-ナセルの政治-」 「ドイツにおけるトルコ系移民-国民国家への統合をめぐる-」 「シオニズム運動の思想とその時代背景」 「イスラエル・パレスチナ問題と中東和平の行くえ-イスラエル側からの視点-」 「独立国家アルジェリアにおけるイスラーム復興運動の展開」 「フランスの移民政策とアルジェリア人移民労働者問題」 「ケマル革命-トルコ近代国民国家形成に関する考察-」 「石油開発の歴史と環境問題-中東石油を中心に-」 「クルド人問題-中東の少数民族-」 「日本における無国籍者-日本の国籍法に関する考察-」 「日本における多文化共生と子供の教育-いちよう小学校を中心に-」 など ●内容（目的やねらい） 本ゼミでは、2つの地域-ヨーロッパ（特にフランス）と中東（北アフリカを含む）-におけるグローバル化に伴う現代社会の問題を主に取り上げる。ドイツとともにEUの中核を担うフランスは今日、大革命以来の自由・平等・博愛という国民国家の理念を揺るがすような問題を多く抱え込んでいる。とくに移民問題は深刻であり、2005年秋にはパリ郊外から発生した移民の若者の暴動は全国に広がり、戒厳令が発令されるまでに至った。移民の歴史は植民地時代にまでさかのぼる歴史的帰結としての問題である。またフランスの旧植民地であった北アフリカでは、2011年にチュニジアのジャスミン革命が起こり、これを契機に中東全域に民主化のうねりが拡大し、チュニジア・エジプトでは独裁政権が瓦解した。リビアは内戦に陥り、カダフィ政権はNATO軍の介入により崩壊し、さらにシリアは今も内戦状況で、多くの難民が周辺諸国に流出している。しかし、独裁政権が倒れた国々でも民主化の新たな道筋はいまだ見えてこない。 本ゼミでは、フランスを中心としたヨーロッパの近現代史、とくに帝国主義や植民地問題、あるいは中東から見た近現代史を取り上げ、国家と社会について研究を行う。これらの問題は究極的には、国民国家とは何か、という問題に帰着するであろう。 以上のような外国研究は日本との比較の視点からなされるのであり、それは日本社会の在り方、そして日本人の生き方にも敷衍していく問題である。グローバル化にともなう地域社会の変容をテーマとし、日本における異文化接触の問題も取り上げていきたい。例えば、日本のムスリム社会やイスラーム問題、大都市の中で多文化共生を模索するイスラームコミュニティの研究など				

学修到達目標	中東・ヨーロッパ・北アフリカの地域研究をすることによって、日本の国家や社会を客観的にみる視点を獲得できるようにする。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習はテキストを読んでくること（2時間）。
【復習】時間・内容	復習はゼミで発表したり聞いたり議論して理解したことをノートにまとめる（2時間）。

成績評価	
評価基準・方法	レポート、演習の出席状況・ゼミ活動に取り組む姿勢等により総合的に評価する。欠席は原則として認めない。欠席が続く学生はゼミをやめてもらうこともある。
フィードバック方法	レポートの講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	尾上修吾『「社会分裂」に向かうフランス』明石書店、2018年11月 尾上修吾『「黄色いベスト」と底辺からの社会運動』明石書店、2019年12月 山本三春『フランス ジュネスの反乱』大月書店、2008 年。 桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書 宮島喬『外国人の子どもと日本の教育-不就学問題と多文化共生の課題』東京大学出版会 ロジャー・ブライス著、河野肇訳『フランスの歴史』創土社 谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房 宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店、2006年 宮島喬『移民の社会的統合と排除-問われるフランス的平等』東京大学出版会 山本三春『フランス ジュネスの反乱』大月書店 立山良司編著『中東』、自由国民社 宮治一雄・宮治美江子編『マグリブへの招待-北アフリカの社会と文化-』大学図書出版 バンジャマン・ストラ著、小山田紀子・渡辺司訳『アルジェリアの歴史』明石書店 新井政美『トルコ近現代史-イスラム国家から国民国家へ』、岩波書店 水谷周編著『アラブ民衆革命を考える』国書刊行会 酒井 啓子 編著 『〈アラブ大変動〉を読む-民衆革命のゆくえ』東京外国語大学出版会
---------	--

受講上の留意点等	本ゼミではフランスや中東地域研究を中心に行うが、これに限らず、ヨーロッパや日本における問題を個別研究として取り上げてもよい。ただし担当教員のカバーできる歴史学や国際社会学等の分野のテーマであることが望ましい。ゼミ(演習)は、教員からの一方的な指導によって進めるものではなく、ゼミ学生がその運営に積極的に参加して作り上げていく共同研究グループであるので、みんなと一緒にやっていくのだという気構えを持ってこのゼミに入してほしい。今年はどのようなメンバーが集まるのか楽しみである。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	鈴木 佑也		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること		
授業の目的・テーマ	存在しない物語を掘り起こす-ロシア・ソ連地域の文化現象を対象に（ゼミナール編）				
内容	このゼミではロシア/ソ連地域におけるアート、建築、音楽などの文化現象を扱う。特に20世紀以降のロシア/ソ連または社会主義圏での文化現象にとどまらず今日の文化現象を分析/批評する知識や視点を身につけることを目標とする。 ゼミでは自らが関心のある文化現象を研究テーマとして掲げ、そのテーマや関連事象を分析し、学術論文を完成させることが目的となる。レポートや論文作成指導はもちろんだが、テーマとする文化現象をどのような観点から論じるか、また自らのテーマを論理的かつ説得力を持って他人に向けてどのように説明するかという指導も積極的に行う。分析や調査の際に、ロシア語および英語の学術論文や文献、資料などを読むことがこのゼミでは求められる。このゼミで扱う対象となりうるのは以下の通りである： 地域：ロシア・ソ連地域またはヨーロッパの旧社会主義圏 分野：アート、建築、都市文化、都市計画、芸術政策、表象文化（ファッションや歌謡曲、デザインなど） 時代：20世紀から21世紀 ただし、上記の対象と近いものに関心があれば個別に相談してもらいたい。				

学修到達目標	- 今日の文化現象を分析/批評する知識や視点が身につく。 - 文化現象に対して多角的な視点から分析/調査することができるようになる。 - ロシア/ソ連(または社会主義圏)の文化事象に対して、政治とリンクさせて考察を深めることができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。これは最低限の時間であって、関心のあるテーマや自らが取り組む課題であれば何時間かけても「多い」ということはない。
【復習】時間・内容	2時間。ゼミや卒論では、おそらく1回目を除いて、予習と復習が繋がっている。

成績評価	
評価基準・方法	ゼミは通常の授業と異なり、一種のチームを組んで自らの仕事をやり遂げることが重要となる。そのため、ゼミへの貢献と自らの研究テーマに対する積極的な取り組み、そして課題となるレポート及び論文への完成度が評価対象となり、それらを総合的に評価する。
フィードバック方法	発表や課題に対する講評はできるだけ授業内に行い、他の学生が参考となる（論理の組み立て方、着眼点の置き方、批評方法など）ようにしたい。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション

教科書/参考書	参加者に応じて変更する場合があるが、現時点では以下の通り。ソ連時代の文化全般や「ソ連人」のメンタリティに関連するテキストや書籍を考えている。 共通テーマ用テキスト： 亀山郁夫『ロシア・アヴァンギャルド』岩波書店、1992年 W. ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社、1999年 I. ゴロムシトク『全体主義芸術』水声社、2007年 S. アレクシエーヴィチ『セカンドハンドの時代』岩波書店、2016年 A. ユルチャク『最後のソ連世代』みすず書房、2017年 M. オクチュリエ『社会主義リアリズム』白水社、2018年 論文作成指導用テキスト： 戸田山和久『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版、2012 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社、2012（副読本）
---------	---

受講上の留意点等	日常生活での些細なもの（主に文化現象）に対して「なぜ」と思ったり、それに関連した「面白い」ことを追求するのが嫌でなければ、誰でもどうぞ。できる限りソ連（ロシア）や社会主義圏で「面白い」と思うことを対象にしたいですが。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	山田 裕史		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-310005	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	SDGs達成に向けた国際協力				
内容	国際協力について学ぶゼミです。2021年度と2022年度は、特に「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」について基礎から学びながら、発展途上国が抱える課題とそれに対する国際協力について専門的な知識を身に付けます。 SDGsとは、貧困や気候変動、人種やジェンダーに起因する差別などの地球規模の問題や課題を、国際社会が協力して2030年までに解決しようとする、世界共通の目標です。学食やトイレなど学内のいろいろなところで、番号の付いたカラフルなステッカーを目にした人も多いのではないのでしょうか。あのステッカーに書かれているのが、よりよい未来を目指すためのSDGsの17目標です。 このゼミでは、単にSDGsや国際協力について学ぶだけでなく、実際に一人ひとりが自分にできること、できそうなことから日常生活のなかで国際協力を実践し、SDGsの達成に取り組むことを目指します。 また、卒業論文の執筆に不可欠な、学びの技法をしっかりと身に付けます。具体的には、研究テーマの決め方、図書館での文献・資料など情報の探し方、プレゼンテーションの仕方、レポート・論文の書き方などを学びます。学期末には、各自テーマを決め、ゼミ発表とレポート執筆を行います。このゼミでしっかり学べば、卒業論文の書き方がわからない、というようなことにはならないはずです。 なお、希望者がいれば、カンボジアまたはベトナムをフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーの実施も検討します。				

学修到達目標	国際協力・SDGsに関する基礎知識を身につけ、日常生活のなかで実践できる。 卒業論文の執筆に不可欠な、学びの技法が身につく。
実務経験との関連性	国際協力NGOでプロジェクトに従事した経験を授業内容に反映する。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。テキストの指定箇所を精読する。
【復習】時間・内容	2時間。テキストの不明点を理解する。

成績評価	
評価基準・方法	(1) 出席、(2) グループ・ワークやグループ・ディスカッションへの貢献度、(3) プレゼンテーション、(4) 期末レポート、をもとに総合的に評価します。
フィードバック方法	グループ発表に対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	2021年度は次の3冊を講読する予定です。 (1) 南博・稲場雅紀『SDGs-危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年 (2) 黒田卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学-途上国の暮らしを考える』有斐閣、2016年 (3) 佐藤寛『開発援助の社会学』世界思想社、2005年 また、以下のテキストを用いて、卒業論文執筆に必要な学術的な技法を学びます。 川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術-プロの学術論文から卒論まで』勁草書房、2010年
---------	--

受講上の留意点等	国際協力に関する専門的なテキストを講読するため、4年次への進級前後に後期開講科目「国際協力論」の単位を取得済みであることが望ましいです。 また、週1回のゼミ以外の時間帯に、学外へフィールドワークに出かけたり、ローカルSDGsの実践という観点から地域連携活動に取り組んだりします。夏休みと春休みには2泊3日のゼミ合宿も行います。つまり、ゼミ以外でも相当な時間と労力を要するということです。それでも、同じゼミの仲間たちと大学時代にしかできない経験をしたいという、学びと活動の双方を重視する積極的な学生の履修を歓迎します。 本学には、先進国と途上国の食の不均衡の問題に取り組むTFT-NUISや、フェアトレード推進団体NUIS FT、SDGs推進団体Rainbow World Projectなどの国際協力・SDGs推進団体があり、このゼミで学んだ学生たちが中心となって国際協力やSDGsを実践しています。また、学外でも、万代アースフェスタへの出展、新潟の国際協力NGOが一堂に会する国際協カイベントの企画や運営、岩室地域でのローカルSDGsの実践などに取り組ん。でいます。一緒に活動したいという意欲のある学生の履修を歓迎します。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	佐々木 寛		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-310005	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	平和のための地球政治学―新しい＜文明＞を求めて				
内容	当ゼミでは、危険や問題がグローバルに展開する現代で、人間がすこしでもよりよく生きぬいていくための方策をいっしょに考えてみようと思います。そのためにはまず、現代の危機や問題の本当の姿をしっかりと知的につかまなければなりません。身近な問題がもつ世界的な意味をおのが理解すること。これが第一のねらいです。第二に、このような問題を考えるにあたって、なぜ既存の知的な枠組み＝専門分化した社会科学だけではダメなのか、いかにこれまでの「勉強」が、人間がいきいき生きていくための「学問」をダメにしてきたのか、について考えてみようと思います。その意味で、新しい学問運動としての「平和学」の可能性や新しい大学のあり方などについても議論できればと思います。そして最後に、広い世間でさまざまな展開する新しい試みや活動を見る中で、現代でよりよく生きてゆくための新たな方策、新しい生き方や＜文明＞のあり方とともに探求できればと思います。さまざまな市民活動やNGOで活躍する人たちをゼミに招いたり、ゼミ学生自身が自分たちの力でNGOを設立・運営したり、いろいろなことに挑戦しようと思います。 最終的に各自ゼミ論文（3年次）、および卒業論文（4年次）の作成を目指すため、多種多様なテキストを読みこんでゆくだけでなく、さらに必要に応じてワークショップ、調査旅行やフィールド・ワークも行います。また、映画をはじめとする映像資料もできるだけ多く活用する予定です。なお、佐々木ゼミでは毎年、海外に平和研修旅行に訪れるのが慣例になっています。各地の歴史資料館や戦争/平和記念館（ドイツでは「アウシュヴィッツ」、韓国では「ナヌムの家」）などを訪れ、身体全体で世界の問題を感じ、思考することを目指します。 当ゼミでは広い意味での暴力や平和に関する問題を扱いたいと思いますが、細かいことは、参加学生の自由意思にゆだねます。扱うテキストに関しては以下に一例として挙げたものを参考にしてください。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。 ゼミの進め方や運営方法に関しては、基本的に参加者と相談して決めます。ただ、テキストを読む場合は、報告者をたてて報告をしてもらい、それを討論者が整理・コメントするという方法をとろうと思います。その後は自由討論。司会も学生です。だから教員は必要最小限のことしか話しません。参加学生がゼミをつくりあげます。				

学修到達目標	卒業後もさびないセンスと行動力の涵養をめざします。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧
【復習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧

成績評価	
評価基準・方法	ゼミへの参加態度や貢献度（80％） ＋ レポートの出来（20％）
フィードバック方法	ゼミ合宿等で講評を発表します。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／反転学習／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	◎H. アレント『人間の条件』 筑摩書房 ◎A. ギデنز『近代とはいかなる時代か？』 而立書房 ◎U. ベック『危険社会』 法政大学出版局 ◎A. メルッチ『現代に生きる遊牧民』 岩波書店 ◎E. サイド『知識人とはなにか』 平凡社 ◎P. ブルデュー『メディア批判』 藤原書店 ◎日本平和学会編『「3・11」後の平和学』 早稲田大学出版部 など。 ー他に必要に応じて英語文献も読みます。
---------	--

受講上の留意点等	能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていかうとする気概をもった学生、また、大学生活を締めくくる上で悔いのない卒業論文を書き上げたいと思っている諸君を歓迎します。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	澤口 晋一		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		国際学部C：新潟の地域社会にあって学術的素養を日々に活かす方途をたえず模索する強い意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること		
授業の目的・テーマ	地理学に関連する諸分野（人文地理学＝例えば、地域活性化、まちおこし、観光関連、方言や祭りなど民俗・文化等々および自然地理学各分野）、地球環境問題、資源・エネルギーに関する問題等を対象とします。				
内容	指導分野 私が3年生から4年生の卒業論文まで、責任もって指導できるのは具体的には以下のような分野です。 ・人文地理学：地域活性化、まちおこし、ジオパーク、観光地理学、農業、土地利用（景観変遷）、食糧問題、地域研究、民俗・文化） ・自然地理学：地形学（越後平野、潟、砂丘、高山・山岳、段丘、変動（活断層）地形、第四紀学） 気候学（小気候・微気候、気候景観、ヒートアイランド等） 地生態学・景観生態学（植生、自然景観保全、ビオトープ） ・地誌学 ・地球環境問題分野：地球温暖化問題、酸性雨、砂漠化、生物多様性 等 ・地域環境問題分野：地域環境保全、ゴミ問題、森林保全 等 ・資源・エネルギー分野：再生可能エネルギー、原子力発電に関する問題（と核問題）等 ゼミでは、3年次には毎年、特に勉強するテーマをゼミテーマとして設定し、それに関連する文献を講読します。さらにそのゼミテーマに即した実習を夏休みを利用して、泊りがけ（2～4泊）で行います。実習地は基本的には当該年度の学生が決めます。実習では、テーマにもよりますが、最近では市役所や企業において当該テーマに係る担当者から説明を聞いたうえで、住民あるいは観光客等に聞き取り調査などを行う、といったことが主体となっています。 4年次には、各自の卒論のテーマに沿った論文講読を担当者を決めて毎週行います。夏休みは各自の卒業論文のための現地調査に取り組んでもらいます。さらに、卒論中間発表や最終発表にむけて複数回の予行演習を実施し、完成度を高めていきます。				

学修到達目標	①資料（論文、専門書）の読解力を養う。 ②現地に向いて独力で調査を遂行する力を養う。 ③現地調査を通じて得られたデータの分析力を養う。 ④以上の３点を整理し、論理的に文章化しプレゼンできる力を養う。 こうしたことは大学だけで必要なものでは決してありません。社会に出て常にも必要とされる素養であると認識してください。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間（当該論文の事前学習）。 但し、発表者は5時間。
【復習】時間・内容	2時間（報告論文と発表内容の確認）

成績評価	
評価基準・方法	ゼミへの取り組み姿勢等総合的に評価。
フィードバック方法	毎回のゼミにおいて、報告者に対して報告内容に対してコメントする。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	相談のうえ決めます。
---------	------------

受講上の留意点等	このゼミでは、卒論の作成を見据えて、実際にフィールドに出かけて自分の脚と口と眼と耳と頭脳を使って調査して得た資料やデータの分析と（客観的な）解釈に基づいて考察し、一定の結論を導く、というプロセスを最重要視します。したがって、卒論作成を他人の書いた書籍や論文を適当に組み合わせて済まそうとする人には向きません。 以下に、ここ2年間における卒業論文のタイトルの一部を示しておきます。 ・オープンファクトリーによるまちづくりとその効果-燕・三条地域を例に- ・佐渡ジオパークにおける観光客・住民の意識調査 ・コンテンツツーリズムとしてのYoutuberの可能性と課題-愛知県岡崎市を事例として- ・年齢別・地域別にみた新潟県における東京型アクセント・イントネーションの変化 ・大熊 孝の治水論に基づく日本のこれからの治水のあり方 ・阿賀野市の地域通貨「あがのポイントカード」の現状と課題 ・新潟市中央区古町商店街の衰退と再生 ・北陸新幹線開業と並行在来線第三セクター化の影響 ・新潟市における農産物直売所と地域活性化との関わり ・クルーズ船による観光振興の可能性について-日本人若年層のクルーズ船利用者数を増加させるために- ・外来昆虫に関する日本人の意識と問題
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	小林 伊織		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		国際学部B：高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会において協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること		
授業の目的・テーマ	Peter Seminars on World Englishes for juniors/seniors (In preparation for writing an undergraduate thesis on World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF), and sociolinguistics)				
内容	There are more non-native speakers of English in the world today than there are native speakers. Asia is the region with the largest number of English speakers in the world. This means that the learner in Japan is more likely to use English with other non-native speakers, particularly those from Asia, than with native speakers. There is no single standard variety of English in the world. The spread of English around the world meant that many different varieties of English developed in various locations. It did not mean that British English or American English was transplanted in different locations in its original form. English is an Asian language. Japan is a part of Asia; English is also a Japanese language. When a Chinese, a Japanese, a Korean and a Russian talk to each other in English, each one speaks his/her own variety of English. Here, what is considered to be “correct” or “incorrect” in American English is irrelevant as long as they can communicate successfully. The learner from Niigata should be able to use English as his/her own tool to express the cultures and thoughts of Niigata to people in Asia and all over the world. In the Peter Seminar, we first look at the frameworks and key concepts of World Englishes. Then we explore selected varieties of world Englishes, including Philippine English, Singapore English, Indian English and West African English. Finally, we consider the implications of the emergence of new Englishes for English language teaching and learning. 1. Pre-class reading 2. Short introductory lecture 3. Small group discussion 4. Student presentation				

学修到達目標	At the end of the seminar, students should: ? Have gained advanced knowledge on World Englishes and related sociolinguistic issues; ? Have acquired enough know-how to conduct research on a topic related to languages; ? Be ready to embark on an undergraduate thesis in English.
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	The seminar requires 2 hours of self-study before every session. This time should be spent doing pre-seminar reading as well as presentation and essay preparations.
【復習】時間・内容	The seminar requires 2 hours of self-study after every session. This time should be spent doing pre-seminar reading as well as presentation and essay preparations.

成績評価	
評価基準・方法	Grading percentage 60% Classroom grade 20% Attendance 20% Participation 20% Coursework 40% Assessment 20% Individual presentation 20% Term paper
フィードバック方法	Before, during and after the semester, you will receive feedback about your performance in the seminar through oral and written methods.

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション

教科書/参考書	Honna, N., Takeshita Y. & D' Angelo, J. (2012). Understanding English across Cultures. Tokyo: Kinseido. Honna, N. & Takeshita, Y. (2009). Understanding Asia. Tokyo: Gengage. 本名信行 (2006) 英語はアジアを結ぶ 玉川大学出版部 Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students. Oxon: Routledge. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge: Cambridge University Press.
---------	--

受講上の留意点等	You should join the Peter Seminars if you plan to write an undergraduate thesis in English about topics related to World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF) and sociolinguistics. Other details of the seminars will be announced in the first meeting.
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	アレクサンドル プラーソル		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-310005	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的・テーマ	ロシア社会の歴史（建国時代から現在に至る）、政治、文化				
内容	このゼミはロシア社会史の基本知識を得ることを目的とする。「何がいつ起こったか」「誰がによって何が引き起こされるか」を覚えるのは勉強の中心ではなく、歴史的に重要な出来事を通じて、特定時代の社会背景と雰囲気、当時のロシア国民やメンタリティーを考察し、異文化ロシアの全体的知識を身につけることを目指す。この科目で学ぶ時期はスラブ人の建国から20世紀初頭の社会主義革命までである。 学生の発言力がつくようにゼミ中の論争をあくまでも励ましたいと思う。そのためにゼミ生は教員が用意した資料を宿題として読み、内容をまとめ、プリントアウトしたものを全員に配付し、発表する。発表はゼミ生の人数によって毎週又は隔週なされる。資料の不明点や疑問点等については発表者に質問を用意してもらい、担当教員が回答・説明する。補足資料として授業中に視聴教材を利用する。それぞれの発表を巡ってゼミ生による意見交換やディスカッションを計らう。				

学修到達目標	近代ロシアの国家と社会が形成されてきた過程に関する知識が身につくことによって現代ロシア民衆のメンタリティや社会・政治に対する意識を理解できるように考えていく。
実務経験との関連性	異文化のロシアで生まれ育ち、それまで得た実務経験を生かして現代ロシアの社会・政治・文化の事情を紹介する。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前週配布資料を通じての予習
【復習】時間・内容	2時間。配布資料の見直しと不明点を調べ理解する。

成績評価	
評価基準・方法	出席率60%、授業の参加20%、期末レポート20%の評価。
フィードバック方法	期末レポート提出後に模範解答、講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション

教科書/参考書	デヴィッド・ヴォンズ著 ロシア皇帝歴代誌 創元社 2001 和田春樹著 ロシア史 山川出版 2002 教員が用意した資料、視聴教材
---------	---

受講上の留意点等	発表準備の際、参考文献に難解のところがあれば、別の参考書を利用して明確にすること。 研究の目的は異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけることである。フィッドバックとして特に優秀な答案を公表し、全般的な講評を行う。 発表準備の際、参考文献に不明な点があれば、追加参考書で調べる。発表準備の際、不明な点について質問などを用意して授業中に担当教員に説明してもらうようにしよう。 ゼミ研究の目標は次の通りである。 グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な目差しをもって向き合う実践的な態度を獲得し、国境を越えた個別具体の問題への認識を深める国際教養及び研究手法を体得していること。 異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること。 日本社会にあって上記学術的素養を日々の生活に生かす方途をたえず模索するつよい意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	熊谷 卓		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	現代社会を生き抜く-国際法と社会学という視点から-				
内容	1 ゼミの内容 戦争、貧困、環境保護、移民、宗教対立、国際テロなど、我々の生きる現代社会は地球規模の様々な問題を抱えています。本ゼミナールにおいては、いかにしてこれらの問題を理解し、その原因をあきらかにし、対処のしかたを 考えるか、これまでに試みられた様々な議論を参照しつつ、ゼミナール構成員と共に考えてみたいと思います。 なお、上に見たような問題について考える場合、本ゼミナールにおいては、指導教員の専攻分野である（国際）法と社会学を分析の手段として用いることを基本にしています。 もっとも、問題の性質によっては、法学的な視点にとどまらず、政治的、歴史的な、文化的なアプローチも加味しながら、考察を行います。 以上のような作業をコツコツとでも、しっかり行うことで、「現代社会を生き抜く」（強い社会人となる）ための術(すべ)がゼミナール構成員に伝わると信じております。 なお、法について苦手意識があっても、強いやる気があれば、大丈夫です。どうか安心ください。 ただし、ある程度のハードワークを求めますし、英語を読むこともあります。この点を留意してください。 また、時間が許せば、これまで滞在していたニュージーランドの抱えている諸問題やトピックについても考察できたらとも考えています。 2 教員の現在の関心 21世紀の国際社会が解決を求められる国際テロリズムについて、国際法からどのような対処ができるか、研究をしています。 3 これまでの卒業論文のタイトル例(ごく一部です。見れば分かるように法に関するものばかりではありません。卒論テーマは学生の主体的な選択に任せています。) 「LGBTQへの差別を無くすためには」、「日本と海外諸国における同性婚の制度と法律の違い」、「集団的安全保障体制の課題-国連を中心に-」、「国際法はなぜ守られないのか-アメリカによる対テロ戦争を中心に-」、「裁判員制度が及ぼす国内司法制度への影響」、「公共交通の課題-新潟市の事例から-」、「日本の小学校英語教育について-韓国との比較-」、「日本の学校教育における児童・生徒の人権-体罰問題の解決に向けて-」、「英語教育制度の日・露・韓比較」、「多様化するいじめ-その影響と対策」、「フランスにおける移民制度」、「日本における外国人労働者について」、「ディズニー映画に関する一考察-ジェンダーないし人種差別という視点から-」 テーマごとに使用するテキストや資料をゼミナール構成員全員で考察します。その際、報告者が中心的研究発表を行います。が、その他の構成員もそれに対する質疑という形で主体的に参加してもらいます。				

学修到達目標	本ゼミを通じて当該学年の学生に求められるスキルが十分に身につく。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	各回のテーマ（アウトライン）について十分に予習（1時間）のこと
【復習】時間・内容	各回のテーマ（アウトライン）について十分に復習（1時間）のこと

成績評価	
評価基準・方法	ゼミ報告やレポート（50パーセント）、あるいはゼミへの参加度（50パーセント）を総合的に判断し、成績を付けます。
フィードバック方法	質問については遠慮なく聞いてください。 レポートや課題についても個人的な指導をします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	『現代社会論』有斐閣←基本テキスト 『BLの教科書』有斐閣 『犯罪・非行の社会学 -常識をとらえなおす視座-』有斐閣 『LGBTをめぐる法と社会』日本加除出版 『ジェノサイド再考：歴史のなかのルワンダ』名古屋大学出版会 Haruki MURAKAMI（村上春樹）の諸作品（英訳） 『The english journal』アルクから必要な部分
---------	---

受講上の留意点等	「ゼミ選択上のアドバイス」 個人的な経験をいえば、大学・大学院のゼミで指導いただいた2人の先生なくして、現在のわたしは絶対に存在していません。「3.4年ゼミ」はそれぐらい重要なものと思っています(本ゼミの卒業生でも大学院で研究を継続している人も居ます)。ですので、十分に検討してゼミを選んで欲しいと思います。受けて良かった!というゼミを実現したいと考えています。 以下、参考までにまとめとして(繰り返しも含め)。 (1) 熊谷ゼミの分析視覚は?→法学的思考(社会科学的思考の1つ)です。もっとも、広く他の学問分野のアプローチも取り込みます。卒論のテーマも結果的に多彩です。 (2) 熊谷ゼミの地理的フィールドは?→限定しません(フランス法も個人的には勉強してきました)。 (3) ゼミ合宿は?→これまで日光、会津、村上、新発田、咲花温泉、群馬、伊香保、越後湯沢等で実施してきました。 (4) (国際)社会の動向に何らかの意味で関心を持っている人に勧めます。 (5) ゼミ学生の進路(一部)：新潟県警・県庁、日本郵政、第四銀行、北越銀行、リンコーコーポレーション、大学院進学など。 (6) 「3.4年ゼミ」は4年間の学業の集大成であると共に卒業後の人生にも関わります。 ですので、「絶対頑張ります!」という人にこのゼミナールを勧めます。 私も頑張りますので、どうぞよろしくお願いします!
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3		単位数	2単位	学期	前期
担当教員	吉澤 文寿			実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する			関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005			国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	朝鮮の歴史を学び、「日本」を問う-排外主義または植民地主義の克服のために					
内容	3年前期ゼミでは朝鮮または日本の近世以降の歴史を問い直す。とくに日本の侵略戦争と植民地支配または植民地主義について学ぶ。沖縄、朝鮮、マイノリティなどに視座を求めた学習を通して、自らの思想、認識を点検するとともに、差別意識や排外主義の克服への道筋を追究する。3年後期ゼミから、学生がそれぞれ選んだテーマについて、先行研究を整理し、資料収集及び調査をした結果をもとに、卒業論文を書き上げるための活動に取り組む。 *** 上記の目標に即して、このゼミでは以下の通りの計画で進める。 3 年次前期：テキスト学習…近年発表された書籍または論文を輪読したり、それをもとに討論したりする。 詳細は「使用予定テキスト」を参照されたい。 3 年次後期：個人研究（1）-先行研究の整理…学生それぞれが選んだテーマに即した文献等を収集し、その研究状況を整理する。 4 年次前期：個人研究（2）-調査の実施及びその結果の整理…自分で集めた一次資料やアンケートなどで収集した情報を整理する。 4 年次後期：個人研究（3）-卒業論文の執筆…文献や資料などを補完しつつ、論文を執筆し、完成させる。 *** なお、私の専門は朝鮮現代史、日朝関係史である。社会学ではなく、歴史学を専門としている。植民地支配をめぐる日本と朝鮮（この場合の朝鮮とは、現在の大韓民国および朝鮮民主主義人民共和国に由来する民族などの総称である）について研究してきた。また、米国での在外研究を通して、米国を視野に入れた比較研究などにも関心がある。個人研究は各人の関心をもとにして設定してもよいが、上記のことを一応留意してほしい。 ある程度の人数であれば、報告者と討論者を設定するが、人数が少なければ報告者のみを設定し、議論を通してテキストの理解を深める。私からも適宜テキストの内容がわかるような資料を配布するなど、理解を助ける補助は行うつもりである。また、長期休暇中に、他大学のゼミやワークショップなどで外部の学生と交流したり、フィールドワークを行う機会を持ちたい。					

学修到達目標	近年発表された書籍または論文を輪読したり、それをもとに討論したりすることで、当該テーマに対する理解を深め、文献を読み込む力を高める。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。指定された文献を読み、その内容を理解しておく。
【復習】時間・内容	2時間。自主学習によりゼミでの議論に対する理解を深める。

成績評価	
評価基準・方法	出席とレポートで評価する。 欠席をしないこと。とくに無断欠席は厳禁である。 レポートは2000字程度で、3年次前期に学んだことを整理して作成する。
フィードバック方法	発表についてゼミで講評する。 場合によっては、レポートの内容について講評を発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	3年次前期のゼミでは、おおまかにいくつかのプランを考えている。ただし、実際にどのように学習するかは初回のゼミで話し合いたい。 (1) 朝鮮史を学び直す…植民地期を中心に 糟谷憲一『朝鮮半島を日本が領土とした時代』新日本出版社、2020年 伊藤智永『忘却された支配 日本の中の植民地支配』岩波書店、2016年 (2) 日韓・日朝関係を問い直す…植民地支配をめぐる諸問題から 内田雅敏『元徴用工和解への道-戦時被害と個人請求権』筑摩書房（新書）、2020年 林典子『フォト・ドキュメンタリー 朝鮮に渡った「日本人妻」-60年の記憶』岩波書店（新書）、2019年 (3) レイシズムを問い直す…暴力の本質を問いながら、歴史と現在を考えてみる 梁英聖『レイシズムとは何か』筑摩書房（新書）、2020年 藤野裕子『民衆暴力―揆・暴動・虐殺の日本近代』中央公論新社、2020年 (4) 日本のマイノリティの歴史を問い直す…アイヌ、琉球から
---------	--

受講上の留意点等	志望理由書には残りの2年間で自分が何を学びたいのか、できる限りでよいので、よく考えて書いてほしい。 予習復習に4時間。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	申 銀珠		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	小説・エッセイ・映画で学ぶ韓国・朝鮮と日本 日本と韓国の不幸な歴史とどう向き合うべきか 国家と個人の関係を踏まえて考えよう 前半は、『朝鮮半島と日本の未来』（姜尚中著）を読む 後半は、在日文学を読む① 『GO』 映画『パッチギ』『三度の海峡』等				
内容	日韓比較文化論の一環として、＜在日文学＞についていっしょに勉強したいと思う。＜在日文学＞というと、皆さんは「堅い」「地味」という印象をもっているかも知れないが、日本人・日本社会の他者として生きている＜在日＞の人々によって書かれた作品世界は、まさに日本社会の本質を違う角度から映し出す鏡のようなものといえよう。 日本に帰化した人を含め、朝鮮・韓国人作家が日本語による文学活動を通して日本の政治的文化的体制に深く関係付けられていたのは、戦前の日本の植民地政策が日本語政策とともにあったことと無関係ではない。日本の植民地政策の結果として、在日の作家は、戦後も日本社会において民族や国家や言語の問題を問いながら自らのアイデンティティを探っていかざるを得なかった。同一性共同体といわれる日本社会において排除される存在として認識されていた＜在日＞の問題に、作品を通して近づいていく。そして祖国としての＜朝鮮＞とは＜在日＞の人々にとってどんなものだったのか、＜韓国＞と＜北朝鮮＞の現実を彼らはどのように受け止め、あるいは反目し合ってきたのかを、映画、小説、エッセイ、評論などを通して探りたい。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。 全員が事前にテキストを読みまたは映画を観て、ゼミでは内容をまとめて発表（発表者二人）してもらったあと、皆で討論を行う。毎回の発表者と司会者を事前に決め、ゼミの内容・進行等を学生が主導するものにしたい。＜比べる＞＜調べる＞という二つのことばをキーワードにした、学習者自身が自主的で積極的に参加する＜元気のいい＞ゼミにしたい。				

学修到達目標	日韓関係、日朝関係の現状についての理解を深め、近未来像を自分の視点で考え、描くことができる
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2 時間 テキストを中心に内容の要約と関連事項を調べて発表する。
【復習】時間・内容	2 時間 議論になった部分や発表内容の不明な点を理解する

成績評価	
評価基準・方法	期末レポート（50％）、課題発表（30％）、授業参加（20％）の評価 ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション能力を積極的に評価に加えたい。
フィードバック方法	課題発表については、発表後、評価を述べる 期末レポートについては、個別にコメントを送る（ラインまたはメールで） 前期の期末レポート内容は、補足を加え、後期の最初の時間に全員発表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション

教科書/参考書	・姜尚中『朝鮮半島と日本の未来』（集英社新書） ・李良枝『由熙 ナビ・タリオン』（講談社文芸文庫） ・柳美里『家族シネマ』（講談社） ・金城一紀『GO』（講談社） ・映画『GO』 ・映画『バッチギ』 ・映画『三たびの海峡』他
---------	--

受講上の留意点等	3年のゼミは4年の卒論につながるものだから、自分の興味・関心のある分野を積極的に選んでほしい
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3（遠隔授業）	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	佐藤 若菜		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	中国地域研究／日中関係／台湾・香港／民族衣装・衣服・物質文化／親子・家族・社会関係／結婚				
内容	本ゼミでは、自身の経験や身の回りで起きている出来事から研究テーマを抽出し、学術的な文章として表現することを目指す。まず、レポートや論文の書き方を指導する。論文の閲覧と要約を通して、論文とは何かについて理解することを促す。加えて、卒業論文の要となる資料収集についても指導を行う。特に、日本語だけでなく、英語ないし中国語の書籍・論文を読むことを必須とする。各自が設定したテーマに関して、日本とそれ以外の国における研究分析の違いについて考察する力を身につけることを目標とする。 3年次後期からは、自身の卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関連した文献を読み、発表する。4年ゼミでは卒業論文の進捗状況を発表し、執筆した草稿を定期的に提出する。3年次・4年次のゼミにおいては、全ての学生が発表者に対する質問をし、ディスカッションを行う。 <これまで指導した卒業論文のテーマ> ○中国・台湾・香港に関するテーマ ・現代中国における若者の化粧行動：「90後」世代に着目して ・社会的迷惑行為の日中比較：中国における迷惑行為基準への視角から ・日中国際児の言語選択：母親による言語教育に着目して ・日本と中国のテレビ・コマーシャルがうつしだす文化的差異：視聴者との共存状況に着目して ・台湾映画のなかの日本：本省人監督が描く日本統治時代 ・日中民間交流における青年交流の位置づけ：対中認識にもたらしたもの ○母娘関係、家族、結婚に関するテーマ ・中国の女子大学生と親との関係：進路の選択に着目して ・現代日本における友人化した母娘関係：未婚期から既婚期への変化に着目して ・日本における児童ソーシャルワーカーの役割と位置づけ：イギリスとの比較から ・日本における人とペットの関係性：イヌに着目して ・日本におけるペットの死をめぐる議論：ペットロスに着目して ・子どもの学力と貧困：秋田県と新潟県に着目して ・日本における現代女性の結婚観：晩婚化とその対策 ・同性婚をめぐる議論がうつしだす日本社会：1991-2019年の朝日新聞の記事938件を参照して ○その他：民族衣装、人類学理論、民族誌、文化など ・日本のフォークロア・ファッションにおける循環性 ・「伝統文化」をレンタルし、シェアする若者たち：観光地での新しい着物実践に着目して ・レヴィーストロースの構造主義：神話研究に着目して ・学校で生まれ／消される男女差：子供とジェンダー ・暴走族に付与されたストーリー：漫画・新聞・民族誌に着目して ・日本の若年女性にみる瘦身願望の呪縛：理想体型からの解放にむけて ・被災地における音楽空間の創出：「癒し」の視点から 毎回の予習・復習として、計4時間相当の課題を出す。ゼミでは、各学生がその成果を発表し、皆で議論する。 各学生がテキスト・論文・書籍を読んで作成したレジュメをもとにディスカッションを行う。				

学修到達目標	自身の経験や身の回りで起きている出来事から研究テーマを抽出し、学術的な文章として表現することができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。教科書を熟読し、関連事項を調べる。発表資料を準備する。
【復習】時間・内容	2時間。発表内容の見直しと不明点を調べ理解する。

成績評価	
評価基準・方法	レポート、発表内容、議論における発言の頻度と内容、出席状況等により総合的に評価する。欠席は原則的に認めない。
フィードバック方法	発表内容にコメントをする。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）

教科書/参考書	戸田山和久、2012、『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版社。 その他、各学生の関心に沿って、適宜指示する。
---------	---

受講上の留意点等	学生の主体性を尊重し、中国地域研究や日中関係にかかわる幅広い分野にわたる関心に対応する。中国大陸（中国国家図書館、民族文化宮等）、台湾（国立台湾図書館、中央研究院等）、香港（香港中文大学等）での資料収集と現地調査（北京、上海、広州、貴州、雲南、台湾、香港など）の経験を踏まえ、多様なアプローチを紹介しながら卒業論文の指導を行う。また、民族衣装・衣服をはじめとした物質文化や、親子や家族を含む社会関係に関するテーマに対しても指導可能である。本講義は、全ての回において遠隔授業を実施する。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	堀川 祐里			実務経験の有無	×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-310005	国際学部C：新潟の地域社会にあって学術的素養を日々に活かす方途をたえず模索する強い意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること			
授業の目的・テーマ	労働と社会保障の視点から日本経済を考える				
内容	このゼミでは国際社会を見渡すための視点を確立させるべく、日本経済に対する持論を確立させてほしいと思います。その際に、日本経済を理解するための切り口となるのは「労働問題」と「社会保障」です。 自助原則の貫かれる資本主義社会において、私たちはどうやって生きていくのか、人生において労働ができないとき、社会にはいかなる仕組みが必要なのか、考えていきましょう。 みなさんが生きている社会の諸課題に対して「なぜ？」を問う姿勢を身につけてください。 堀川ゼミでは、3年生の前期から10月ごろまでを使っておこなうグループワークを最も重要視しています。 グループの仲間と協力することがとても大切な課題ですので、夏休みのインタビュー調査、10月の発表会まで責任をもってやり遂げられる学生を歓迎します。 なお、本科目は、2年生までに日本経済や社会福祉に関わる諸科目を履修し、労働と社会保障に関する基礎的な知識を身につけていることが望ましい科目です。 ※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施します。具体的な日程は授業内で説明します。 最終的な到達目標である卒業論文の執筆に向けて、3年生から4年生までの2年間のゼミは以下のような計画で進めていきます。 3年前期～10月：グループワークでインタビュー調査と学内発表会をおこない、労働に関するイメージを掴む。 ※インタビュー調査は訪問する企業等の都合を優先して日程調整するため、夏休みにおこないます。 3年後期11月以降：個別論文を用いて輪読を行う。アカデミックな文章である学術論文の書き方の作法を身につける。 卒業論文の作成に向けて、各自の論文テーマを決定し、先行研究の渉猟、整理を行う。 12月から1月にかけて、作業状況の進捗報告を行う。 4年前期：卒業論文の執筆を進める。適宜、作業状況の進捗報告を行う。 4年後期：夏休み明けを目処に卒業論文草稿を完成させる。 その後、教員から添削を受け、推敲作業を重ね、論文を完成させる。 論文完成後には、研究内容についてのプレゼンテーション練習を行う。				

学修到達目標	自ら進んで課題を見つけ、取り組む力が身につくことを目標とします。 そのために、本ゼミでは前期の初めから後期10月くらいまでの時間をかけて、新潟県内で働く人々へのインタビュー調査と、その学内発表会をおこなってもらいます。 それぞれのミッションは、教員主導ではなく、ゼミ生の力で運営してもらいます。 火曜4限の正規の3年ゼミの時間以外にも、グループで自主的に時間を調整して、作業を進めていく必要がありますので、その心づもりをしてください。 グループの仲間を中心に、ゼミ生同士で協力してミッションを最後まで遂行してください。 3年後期11月以降は、卒業論文の執筆準備のため、輪読とともに、各自の卒業論文執筆を見据えて個人の研究を進め、適宜、作業の進捗状況について報告をしてもらいます。 また、その時々々の日本経済の状況について調べ、考え、ディスカッションを行う時間も併せて設けていきたいと思います。 ゼミでは、とにかく恥ずかしがらずに話すことが大切です。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。インタビュー調査の中で必要なそれぞれのミッション(調査先を探すこと、アポイントメントをとること、実際にインタビューに行くこと、発表会を運営することなど)に関して、教員からは方法をレクチャーし、各ミッション遂行の過程でも適宜相談に応じ、サポートをします。 ただし、教員は「お膳立て(食事の段取りや準備を全て済ませて、あとは食べるだけにすること)」はせず、あくまでミッションの全ての作業はゼミ生におこなってもらいます。 プロジェクトをやり遂げるには、(火)4限の3年ゼミの時間だけでなく、グループごとに自主的に準備の時間をつくる必要も出てきます。
【復習】時間・内容	2時間。インタビュー調査の中で必要なそれぞれのミッション(調査先を探すこと、アポイントメントをとること、実際にインタビューに行くこと、発表会を運営することなど)に関して、教員からは方法をレクチャーし、各ミッション遂行の過程でも適宜相談に応じ、サポートをします。 ただし、教員は「お膳立て(食事の段取りや準備を全て済ませて、あとは食べるだけにすること)」はせず、あくまでミッションの全ての作業はゼミ生におこなってもらいます。 プロジェクトをやり遂げるには、(火)4限の3年ゼミの時間だけでなく、グループごとに自主的に準備の時間をつくる必要も出てきます。

成績評価	
評価基準・方法	グループワークでの作業、授業内での発言や議論など、ゼミ全体への参加の姿勢や態度(50%) 履修者本人が担当する輪読の発表や、個人の卒業論文の進捗報告についての、取り組みの姿勢や内容(50%) ※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としないとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。 ただし、授業内での発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。 また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。 社会に出ていく準備段階として、大人のマナーや所作も身につけてほしいと思います。
フィードバック方法	各ミッションの遂行課程で、適宜講評をおこないます。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	履修生の興味、関心から判断して3本ほどの学術論文を選定します。 内容としては「労働問題」、「社会保障」に関する論文から選ぶ予定であり、内容についてはもちろんですが、学術論文の書き方を勉強できるようなものを使用します。
---------	--

受講上の留意点等	大学での学びの重要な点は、“自分からつかみ取ろう”とする姿勢です。 特に、3年ゼミでは、大学を飛び出して実際に働く人々にインタビュー調査を行うことで、労働に関する課題について具体的なイメージを掴んでほしいと思います。 そのために、以下のような学生の履修を歓迎します。 ①学外へインタビュー調査に出ることに挑戦する気持ちをもつ学生。 ②グループワークに積極的に協力し、自ら自分の役割を見つけて率先して課題に取り組める学生。 ③プロジェクトを最後まで責任をもって遂行できる学生。 多くの皆さんにとって大学は教育の「最後の砦」となります。 そのため、社会に出ていく1歩手前まで来た皆さんには、3年生から4年生では特に学ぶことに全力で取り組み、人生の地図を描くとともに、生きていくための持久力をつけてほしいと思います。 大学3年生から4年生は、就職活動も本格化する時期であり、人生の大きな岐路に立つ時期でもあります。 そのため、この2年間で共に過ごす履修生にはお互いを仲間として支え合う気持ちを持ってほしいと思います。 大学生生活に新たな課題が増えますが、履修生には、ゼミ生はお互いに切磋琢磨するライバルであり、同時に長い人生の上での大切な仲間であるという意識を持って、思いやりを発揮してほしいと考えます。 ※授業内で、数回、Webex等を用いた遠隔授業を実施します。具体的な日程は授業内で説明します。
JABEE	

科目名	国際研究ゼミナール3	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	瀬戸 裕之		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-21-B-3-310005		国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること		
授業の目的・テーマ	東南アジア地域研究入門				
内容	本ゼミでは、「東南アジア地域研究」を学ぶことを主な目的としています。具体的には、植民地支配、第二次世界大戦、冷戦の展開、民主化、グローバル化の進展といった国際社会の変化の中で、東南アジアがどのような戦争や事件を経験し、地域としての発展を試みてきたのか、さらに現在どのような課題を抱えているのかを学ぶことで、東南アジア地域形成の特徴を理解することを目指します。 東南アジアは、かつて欧米諸国の植民地支配を経験し、第二次世界大戦終結後の冷戦期には、インドシナ戦争、ベトナム戦争、カンボジア紛争など激しい戦争が行われ、多くの犠牲者が出た地域です。このような歴史は、現代の東南アジア各国の国民形成のあり方や政治体制にも影響を与えています。一方で、1960年代以降には、東南アジア諸国連合（ASEAN）をはじめ域内での協力が進み、1990年代以降も国境を越えた開発計画や経済連結性の強化が行われるなど、経済成長を遂げています。しかし、域内では経済発展に格差があり、民主化や人権保障の面でも多くの課題を抱えています。 さらに、この地域は日本との関りも深く、多くの日本企業が進出しています。一方で、第二次世界大戦期には、日本が東南アジアに侵略した歴史も忘れることはできません。日本と東南アジアの関係はさらに深まっていくと思いますが、お互いの信頼関係に基づいた強固な関係を築くためには、東南アジアの地域形成を学び、東南アジアを対等なパートナーとして理解することが重要だと考えます。 以上のような問題意識を共有しながら、学生たちと教員と一緒に学んでいきます。				

学修到達目標	2021年度は、「東南アジア地域形成にみる冷戦期からの連続性と変化」をテーマに勉強します。現在、東南アジアでは、ASEANによる域内での協力が進んでいます。ASEANの形成と発展は、冷戦期における東南アジア地域の国際関係や域内紛争が関わっています。また、現在、東南アジアが域外と抱えている国境・領土紛争や、域外諸国や国際機関と進めている大メコン圏開発も、冷戦期からの国際関係や政策変化が関連しています。このように、現在の東南アジアの発展を歴史的な連続性からとらえることによって、地域の特徴と課題をより深く知るための知識が身につきます。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。ゼミで取り上げる文献について事前に読んで内容を理解し、疑問点を整理する。
【復習】時間・内容	2時間。ゼミで議論した点を整理し、資料を読み直して復習する。

成績評価	
評価基準・方法	ゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1)ゼミへの出席と授業態度(25%)、(2)担当した発表内容と取り組みへの姿勢(50%)、(3)ゼミでのディスカッションへの参加(25%)の評価に基づいて成績を出します。
フィードバック方法	学生が行った報告・発表の内容、報告者和其他の学生との間でのディスカッションに対して、教員が補足やコメントを行うことで、学生の理解を深める。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション

教科書/参考書	ゼミの中で、東南アジアの冷戦、ASEANの形成と発展、大メコン圏開発など、テーマに関連する本や論文を紹介します。
---------	--

受講上の留意点等	東南アジアの政治、経済、社会、国際関係に関して学びます。少し内容が難しいかもしれませんが、教員も説明しますので、頑張って勉強してください。 東南アジアの近現代史、現代社会の国際関係に関する基礎知識が必要になりますので、ゼミに入る前に、「現代東南アジア論」の授業を履修していることをお勧めします。受講していない場合も、3年次前期に履修してください。
JABEE	